

競技力向上、私の意見

沼津中央高校 ソフトボール部監督 飯塚 青

NEWわかぶじ国体以来、成年男女・少年男女の競技力がジリ貧傾向にある。
東海ブロック大会を制し国体本大会出場を勝ち取るために「今何をなすべきか」を永年指導者として歩んでこられた方々に意見を語ってもらった。今回は第一回成年男子二部の選手で優勝経験を持ち、現在沼津中央高校監督の飯塚 青氏にお願いした。

投手の育成が急務

ソフトボール競技で勝敗の鍵を握るのは投手力といわれているのは周知のことと思う。全国高等学校総合体育大会で常にベスト4に入るチームの中には、全国中学生体育大会での上位チームで活躍した投手を育てている。ジュニアオリンピッククアップの対象大会が高校選抜女子大会から全国中学生体育大会に

移行したように、日本ソフトボール協会は世界で活躍できる選手を中学生から育てて競技力アップを図っている。本県も少年ソフトボール関係はもちろん、陸上、バレーボール、バスケットボール等、他種目で活躍した選手を、中学・高校と段階的な指導体制をより明確にし、強化に取り組

む必要があるのではないだろうか。それには中・高一貫で指導できる環境が適している。それは指導者が六年間で生徒の体力、技術、精神面の強化をどの時点で、どういう指導をしたら良いかという計画が立てられ、選手の状況によってポイント指導が出来る利点がある。また優秀な選手に長期にわたって接することにより、よりレベル

の高い技術を習得でき、さらに部活動だけでなく、クラブチームで同じ指導者から長期にわたって技術指導を受けることも一つの方法である。全国で戦うためには、切れのある変化球をどう打つか、それには活きたボールを投げる投手がチームに必要。それと全国レベルの投手を擁するチームとのゲームを積むことにより、多くの経験をさせてほしい。選手だけでなく指導者の資質も向上を図って行かなければならぬ

だろう。

ホットコーナー

竹田 務さん

静岡県体育協会功労章を受章



五月三十日に行なわれた静岡県体育協会による、第47回県体育章の表彰で藤枝支部会長の竹田 務さんが功労章の栄誉に浴した。

竹田さんは昭和四十六年に地区の父親ソフトボール大会に選手として参加して以来、今日までソフトボールの普及・発展に尽力。この間、志太地区のソフトボール競技について県協会との連携を密接に取りながら、振興発展に尽力され、また、県協会役員として昭和五十一年から協会運営に携わり、各種の国際大会、全国大会の誘致や開催に参画された。

受賞について「大変重い章であり、藤枝支部を代表していただいた。これで卒業ではなく、これからもスポーツの振興・発展に尽力していきたい」と受賞についての所感を述べた。竹田さんは現在藤枝体育協会副会長・藤枝支部ソフトボール協会の会長として地域総合スポーツクラブを通じて、地域青少年の健全な育成活動に尽力している。

飛龍三年ぶりアベック優勝

平成十八年度高校総体(女子58回、男子41回)静岡県予選会が五月二十八から掛川支部主管で開催され、女子16、男子5チームが参加して行なわれた。

結果は男子・女子とも沼津支部の飛龍高校が優勝し、全国大会へ三年ぶりのアベック出場を果たした。

なお、春の全国選抜大会準優勝の高葉菊川高校は準決勝で飛龍高校に〇対三で破れ高校総体連覇はならなかった。

▽女子の部
【準決勝】飛龍3-0 常葉菊川、掛川東1-0 城南静岡
【決勝】飛龍 02200000 4 掛川東 1000010 2

▽男子
【準決勝】掛川工業7-2 静岡理工科大学星陵高、飛龍7-0 静岡北
【決勝】掛川工業 0000120 3 飛龍 466000X 16

飛龍は二回表、一死二・三塁からスクイズで同点。さらに適時打で逆転に成功。三回にも二死、二・三塁から適時打で二点を加えリードを上げた。掛川東は一回裏に敵打で一点を先制し、終盤の六回にも盗塁と適時打で追いついたが、飛龍の鈴木に要所を抑えられ追いつけなかった。

飛龍女子・小畑監督は「常にチャレンジャー精神で臨んだ無欲の勝利。主将の上野が良くチームをまとめてくれた。全国は一点が勝負。競り合いに負けぬようディフェンスを鍛えたい。また、上野主将は「信じられないほど嬉しい。皆が自分の役割を果たしてくれた。インターハイでは優勝したい」と笑顔で喜び、全国大会への意気込みを披露。

飛龍男子の安部監督は「男子の優勝よりも女子が優勝し、アベック優勝できたのが嬉しい。インターハイは厳しい試合が予想される。一試合でも多く勝ち、一日でも長く会場にいたい」と全国への抱負を披露。



アベック優勝の飛龍男女ナイン



飛龍優勝投手の鈴木

第61回国体選考会

男女とも清水勢(オール清水・静甲株式会社)が優勝!

第61回国体体育大会選考を兼ねた一般男子県予選会が磐田支部主管で開催され、オール清水が昨年に引き続きオール浜松との決勝戦を制し、連覇を達成。女子も昨年に続き静甲株式会社(清水)が優勝し、成年選考大会は男女とも清水勢が優勝を達成した。

【男子三回戦】オール清水15-0 浜北ヴィクトリー、金沢ナインインフアイブ4-3 駿河クラブ、オール浜松8-1ドリウムワールド磐田クラブ、島田クラブ9-6 静岡選抜
【準決勝】オール清水19-0 金沢ナインインフアイブ、オール浜松8-1 島田クラブ
【決勝】オール浜松 3000000 3 オール清水 10504X 10

【女子一回戦】静甲14-0 藤枝選抜、NECアクセステクニカ2-0 CLUB・JAP AN
【決勝】NECアクセステクニカ 0000012 3 静甲株式会社 100400X 5

【審】小笠原・松田・小林・石川・「記」山口
初回、三安打を集中して先行した静甲は四回先頭打者・大矢の左越本塁打。さらに一死二・三塁から七番関口一、二塁から七番関口の左中間三塁打などで一挙、四点を上げ試合の主導権を握ると、NECの終盤の反撃をしのぎ逃げ切った。一方、NECは岩崎の本塁打などで追いついたが静甲の先発・田淵を崩しきれず勝機をにがした。

【審】飯田・伊藤・白



一般男子・オール清水のナイン



静甲(株)のナイン